

実習スーパービジョンにおける スーパーバイザーとしてのスキル

石井七海 倉田真奈 小室雅揮 中田那月 峯島史佳 山形はるな

1. はじめに

私たちは、社会福祉援助技術現場実習 I（以下、実習とする）での体験の振り返りの中で、スーパービジョンの活用ができず、スーパーバイザー（以下、バイザーとする）である実習担当職員との関係性の構築が困難であったという話があがった。さらに話し合いを進めていく中で、スーパービジョンは、私たちスーパーバイザー（以下、バイザーとする）が進んで動かなければスーパービジョン関係は始まらないと考えた。その考えから、スーパービジョンにおけるバイザーに求められるスキルについて文献を探した。しかし、バイザーについて研究された論文は多くあったが、バイザーのスキルに関する論文は見つからなかった。数あるバイザーのスキルに関する論文の中で、私たちは『スーパービジョンセッションにおいてスーパーバイザーが用いるスキル—ソーシャルワーカーによるスーパービジョンの質的調査—』という論文を見つけた。この論文から、バイザーがスキルを活用することに対して、バイザーもスキルを活用することでスーパービジョンの関係が成り立つのではないかと考えた。

そのため、スーパービジョンをバイザー、バイザーともに作り上げるために、バイザーのスキルからバイザーのスキルを考察していきたい。そして、仮事例では成功例を用いて私たちがバイザーとしてどのように動くべきであったかを明らかにしていきたい。

2. 研究の方法

- ①実習での体験をグループで話し合う。
- ②個々の体験をもとに、共通課題を見つける。
- ③実習担当教員と面談をする。
- ④共通課題からテーマを設定する。
- ⑤テーマに沿った文献を収集する。
- ⑥参考文献と体験を照らし合わせて、考察する。
- ⑦実習の体験をもとに、仮事例を作成する。
- ⑧レジュメを作成する。
- ⑨報告会で研究発表をする。

3. 先行研究

(1) 【スーパービジョンの定義】

ソーシャルワークにおけるスーパービジョンとは、組織の方針に沿って質量ともに最良のサービスを利用者に提供することを目指して、スーパーバイザーの職の遂行を監督・調整・支援・評価する権限を持ったスーパーバイザーが、スーパーバイザーと肯定的に関わりながら、管理的・教育的・支持的機能を果たすことである。

(引用文献：社会福祉養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 8 相談援助の理論と方法 2 中央法規 2018年)

(2) 【スーパーバイザーとスーパーバイジーの定義】

スーパーバイザー（本研究では実習担当職員とする）

援助者が専門職としてさらに成長していくように、スーパーバイジーに対してスーパービジョンを行う人。

スーパーバイジー（本研究では実習生とする）

スーパービジョンを受け、専門職として養成される人である。専門職をめざす実習生などの学生も含む。

(引用文献：梅田寿之『対人援助のスーパービジョン - よりよい援助関係を築くために』中央法規、2005年)

(3) 【段階ごとに活用されるスーパーバイザーのスキル】

スーパービジョンの展開	バイジーを対象としたスキル	バイザーのスキル
<p style="text-align: center;">開始段階</p> <p>セッションのスタートからセッションテーマがバイザーの中で絞り込まれる段階</p>	バイジーの実践力アセスメント	バイジーをアセスメントし、実践力を確認
	セッションテーマの確定	セッションテーマの確定
<p style="text-align: center;">準備段階</p> <p>セッションテーマの確定後に、スーパービジョンの中核となるバイジーの成長課題への気づきを促す介入を行うための段階</p>	介入を受け入れられるようにバイジーを認める	結果にかかわらず、バイジーのがんばりを肯定的に評価する
		結果も含めて、事例におけるバイジーの実践を肯定的に評価する
		バイジーの実践が専門職として適正であった部分を取り上げ評価する

<p style="text-align: center;">展開段階</p> <p>バイザーの介入によりバイジーが自らの支援を振り返り、補強や強化が必要な点に気づき、ソーシャルワーカーとしての成長課題を見出すスーパービジョンの主要な段階</p>	促し	バイジー個人の価値観の影響について気づきを促し、気づかなければ伝える
	示唆	バイジーの支援の傾向や弱点について指摘する バイジーの実践に不足がある時は、本人が気づけるよう促しや質問をするが、次第に伝える内容が増える
	提示	バイジーの気づきが不十分のまま放置せずバイザーが言葉にして伝える
	教示	バイジーが実践できていないソーシャルワーカーとの役割を教える
	気づきの成果の活用準備	成長課題に気づけば達成方法の確認へつなぐ
<p style="text-align: center;">終結段階</p> <p>成長課題への取り組み方をバイザーとバイジーで共有し、セッションが終了する段階</p>	気づきのないバイジーへ成長課題を提示	バイジーの成長のために必要な今後の課題提示 課題提示の際の工夫
	まとめ	セッションを終結させるためにまとめる

(「スーパービジョンセッションにおいてスーパーバイザーが用いるスキル—ソーシャルワーカーによるスーパービジョンの質的調査—」より作成)

4. 先行研究からの考察

『スーパービジョンセッションにおいてスーパーバイザーが用いるスキル—ソーシャルワーカーによるスーパービジョンの質的調査—』と社会福祉援助技術総論で学んだスーパービジョンのサイクルから、バイザーのスキルを考察した。

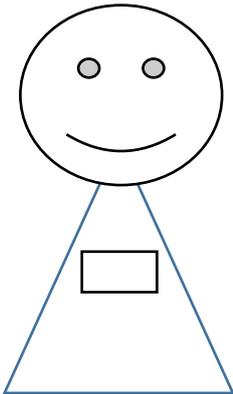
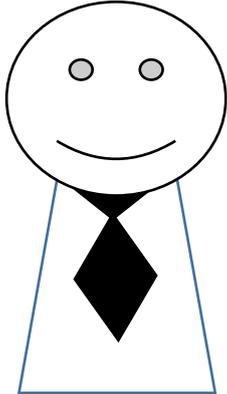
本研究では、バイザーを実習担当職員、バイザーを実習生、セッションを実習スーパービジョンでの実習担当職員と実習生のやり取り、事例を実習とする。

実習担当職員のスキル	スーパービジョンの展開	実習生のスキル	✓
実習生をアセスメントし、実践力を確認	開始段階	計画書を作成し実習先に提出する	
		事前訪問に行き、実習目標を説明する	
実習に取り組み、自己の体験を報告する			
自己の体験での感情や思いを伝える			
結果にかかわらず、実習生のがんばりを肯定的に評価する	準備段階	結果にかかわらず、自己の取り組みの姿勢を肯定的に受け止める	
結果も含めて、実習における実習生の実践を肯定的に評価する		結果も含めて、自己の実践内容を肯定的に受け止める	
実習生の実践が専門職として適正であった部分を取り上げ評価する		自己の実践の中で、専門職として適正であった言動を受け止める	
実習生個人の価値観の影響について気づきを促し、気づかなければ伝える	展開段階	実習生個人の価値観の影響に気づく	
実習生の支援の傾向や弱点について指摘する		実習生の支援の傾向や弱点について指摘を受け、知る	
実習生の実践に不足がある時は、本人が気づけるよう促しや質問をするが、次第に伝える内容が増える		実践の不足部分を知る	
実習生の気づきが不十分のまま放置せず実習担当職員が言葉にして伝える		上記の3つを踏まえて、まだ気づきが不十分であればさらに開示する	
実習生が実践できていないソーシャルワーカーとの役割を教える		実践できていないソーシャルワーカーの役割を知る	

成長課題に気づけば達成方法の確認へつなぐ	展開段階	不足部分（達成課題）を考える	
実習生の成長のために必要な今後の課題提示		終結段階	同様な場面が発生した際の、自己の取り組みを考える
課題提示の際の工夫	課題の達成方法を考える		
やりとりを終結させるためにまとめる	実践を踏まえた実習の記録を作成後、提出し、実習担当職員から助言を受ける		
	実習終了後、実習での体験を踏まえて実習報告書を作成する		
	実習報告会での研究発表		

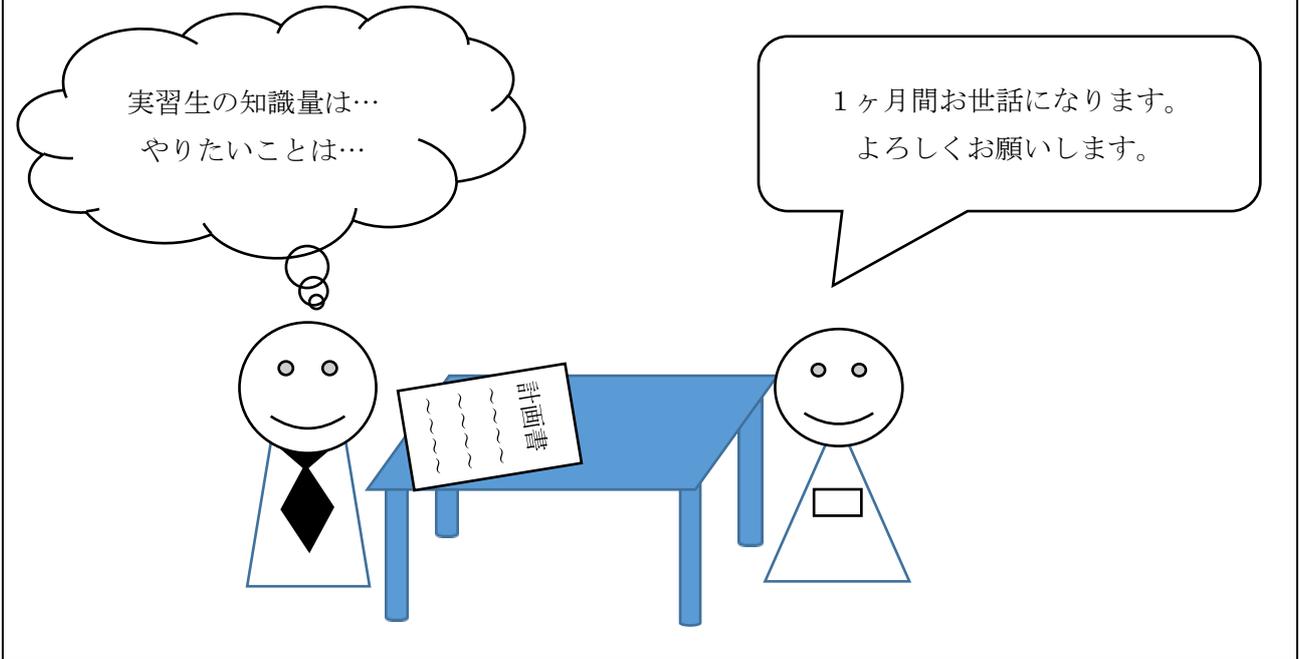
5. 仮事例

【設定】

<p>スーパーバイザー（以下、実習生とする）</p> <p>実習生</p> 	<p>スーパーバイザー（以下、実習担当職員とする）</p> <p>実習担当職員</p> 
---	---

【場面1-1】開始段階

実習開始3ヶ月前から実習計画書の作成を始めた実習生は、事前訪問前に完成させた。実習計画書完成後、事前訪問に訪れた実習生は実習担当職員に挨拶をし、実習計画書を提出した。その際に、実習担当職員に自己紹介を行い、実習計画書をもとに実習目標や実習で取り組みたいことについての説明を詳しく行った。



スーパービジョンの展開	実習生のスキル	✓
開始段階	計画書を作成し実習先に提出する	✓
	事前訪問に行き、実習目標を説明する	✓
	実習に取り組み、自己の体験を報告する	
	自己の体験での感情や思いを伝える	

【場面1-2】開始段階

実習開始後、実習生は利用者Aさん（女性、77歳、要介護5、特別養護老人ホーム入所、以下Aさんとする）が楽しそうに家族と話している場面を見た。その場面から、実習生はAさんと家族について話をした。Aさんは最初会話を楽しんでいたが、次第に沈黙が多くなった。そして、急に泣き出してしまった。

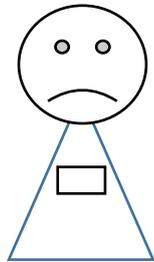
Aさんと話をしていたら、突然泣いてしまいました。

ご家族の話をしていました。

この前、ご家族が面会にいらっしゃっているのを見かけたときに、Aさんが楽しそうに話していたので聞いてみようと思いました。

何の話をしていたんですか？

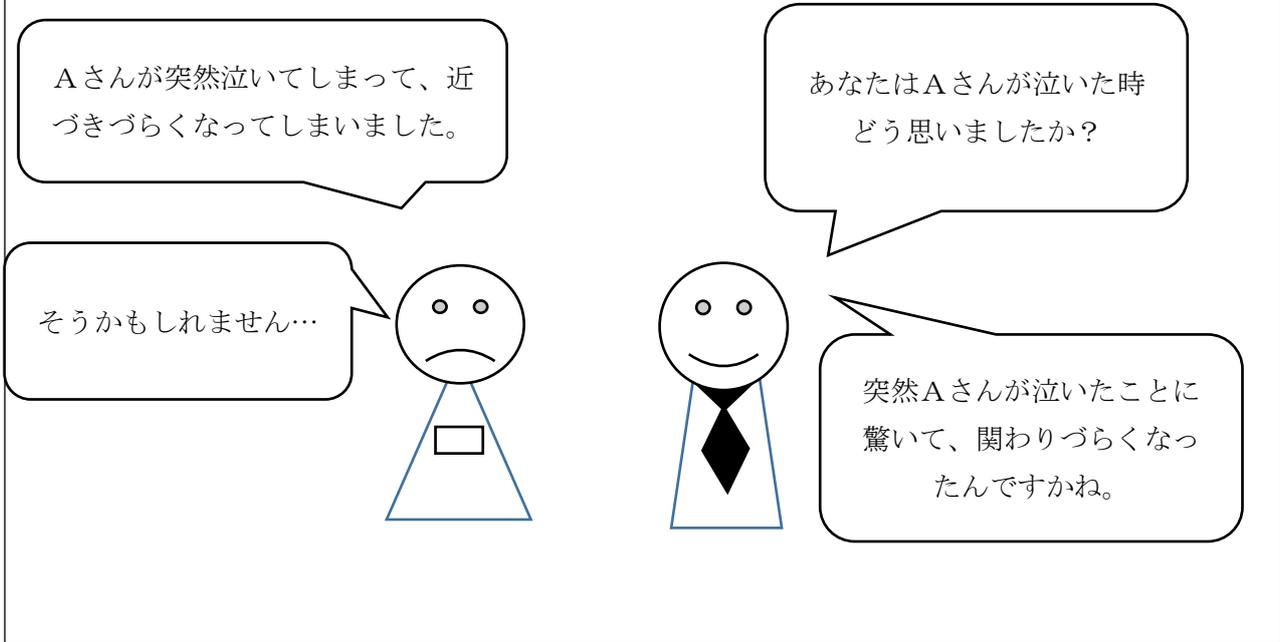
ご家族の話をしたんですね。なぜご家族の話をしたんですか？



スーパービジョンの展開	実習生のスキル	
開始段階	計画書を作成し実習先に提出する	✓
	事前訪問に行き、実習目標を説明する	✓
	実習に取り組み、自己の体験を報告する	✓
	自己の体験での感情や思いを伝える	

【場面1-3】開始段階

実習担当職員は実習生にAさんとの関わりでどんな感情を抱いたか質問した。



スーパービジョンの展開	実習生のスキル	✓
開始段階	計画書を作成し実習先に提出する	✓
	事前訪問に行き、実習目標を説明する	✓
	実習に取り組み、自己の体験を報告する	✓
	自己の体験での感情や思いを伝える	✓

【考察】

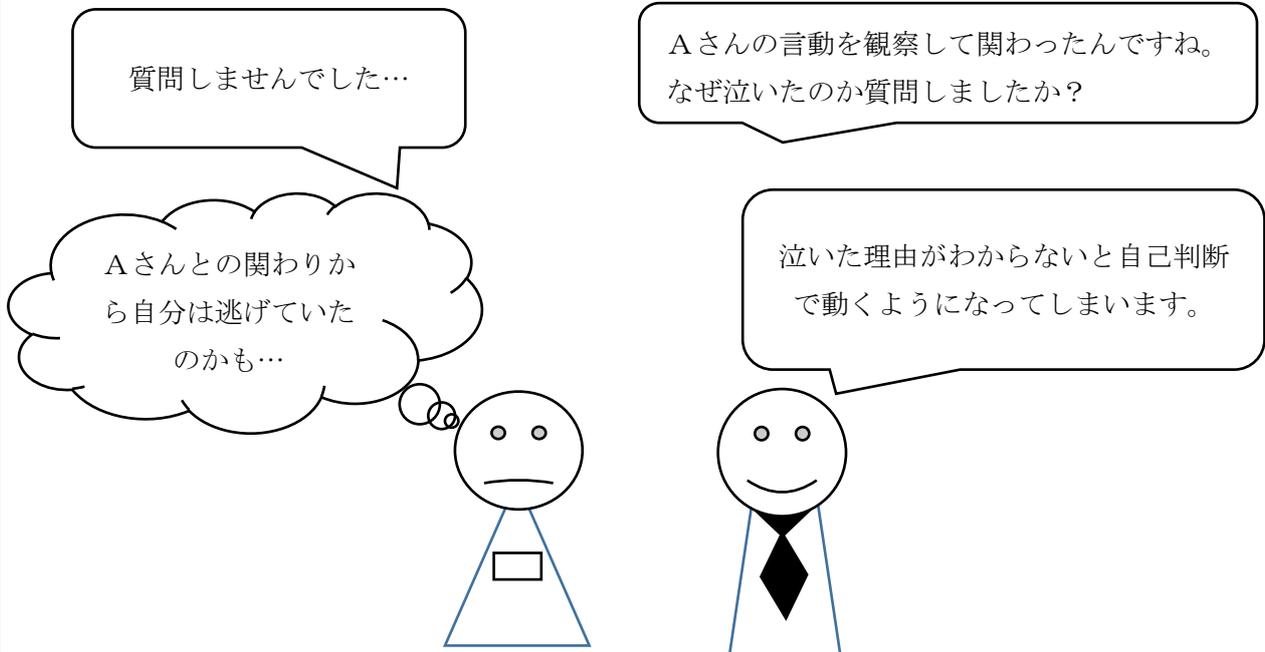
場面1-1から、実習計画書を提出した時点で実習担当職員による実習生のアセスメントは始まっており、実習担当職員と実習生のスーパービジョン関係も始まっていることがわかる。そのため、実習計画書は実習担当職員に対する自己開示のツールの一つであり、実習計画書を作成することは実習スーパービジョンにおける実習生のスキルであると考えた。

場面1-2では実習担当職員の問いかけから、実習生が自己の体験を整理することができた。さらに、場面1-3では実習担当職員の問いかけがあったことで、体験で実習生が抱いた感情を素直に伝えることができると考えた。これらの段階を通して、やり取りのテーマが確定する。

私たちの実習での体験では、実習担当職員からの問いかけにうまく答えられなかった。しかし、仮事例のように答えることで、実習担当職員と実習生ともにスキルが活用できると考えた。

【場面 2 - 1】 準備段階・展開段階

実習生は、実習担当職員からAさんとの関わりについて助言を受けた。



実習生はAさんのことを知ろうと思い、Aさんのケース記録を閲覧した。閲覧を通して、Aさんと家族の関係性がよいことを知った。そのため、実習生はAさんが泣いた理由に疑問を抱いた。そこで、再度Aさんと話をして、Aさん本人から家族について聞こうと思った。そして、Aさんと再度話すことができ、家族について聞くこともできた。

スーパービジョンの展開	実習生のスキル	
準備段階	結果にかかわらず、自己の取り組みの姿勢を肯定的に受け止める	✓
	結果も含めて、自己の実践内容を肯定的に受け止める	
	自己の実践の中で、専門職として適正であった言動を受け止める	

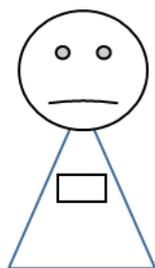
スーパービジョンの展開	実習生のスキル	
展開段階	実習生個人の価値観の影響に気づく	✓
	実習生の支援の傾向や弱点について指摘を受け、知る	✓
	実践の不足部分を知る	✓
	上記の3つを踏まえて、まだ気づきが不十分であればさらに開示する	
	実践できていないソーシャルワーカーの役割を知る	
	不足部分（達成課題）を考える	✓

【場面 2 - 2】準備段階

実習生は実習担当職員に、Aさんと再度話したことを報告した。実習担当職員は前回のスーパービジョンを踏まえたうえで改めてスーパービジョンを行った。

Aさんにご家族の話をする
ことができました。

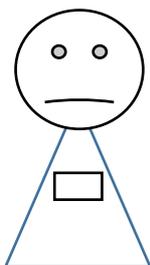
Aさんにご家族の話ができたんですね。
Aさんから話を聞いて、なぜ泣いたんだ
と思いますか？



実習生はAさんと話すことはできたが、泣いた背景の理解には至らなかったことを実習担当職員に正直に話した。そこから、実習担当職員は実習生の実践を評価した。

Aさんにとってご家族はとても大切な存在だとわかりました。ですが、Aさんが泣いた理由まではわかりませんでした。

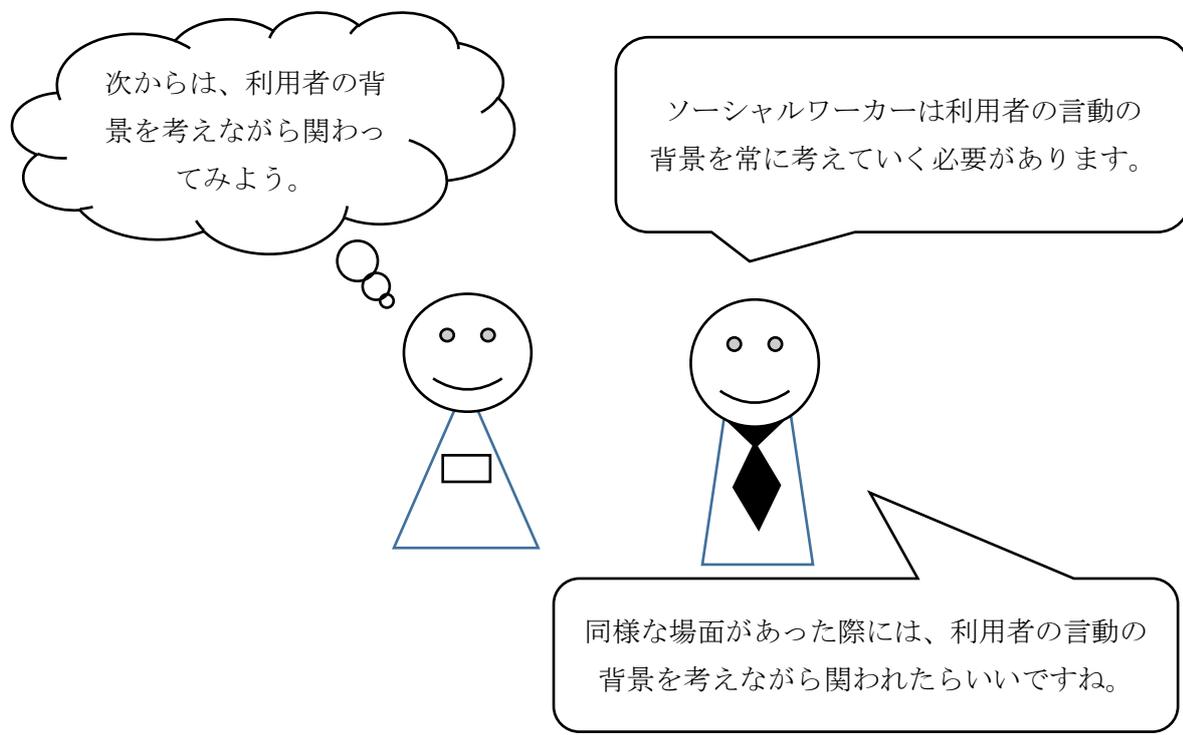
そうですね。
Aさんと再度話すことができ、またAさん
にとってご家族が大切であることがわかり
ましたね。



スーパービジョンの展開	実習生のスキル	
準備段階	結果にかかわらず、自己の取り組みの姿勢を肯定的に受け止める	✓
	結果も含めて、自己の実践内容を肯定的に受け止める	✓
	自己の実践の中で、専門職として適正であった言動を受け止める	✓

【場面2-3】展開段階・終結段階

実習担当職員は、実習生の気づきが不足している部分を提示した。



スーパービジョンの展開	バイジューのスキル	✓
展開段階	実習生個人の価値観の影響に気づく	✓
	実習生の支援の傾向や弱点について指摘を受け、知る	✓
	実践の不足部分を知る	✓
	上記の3つを踏まえて、まだ気づきが不十分であればさらに開示する	✓
	実践できていないソーシャルワーカーの役割を知る	✓
	不足部分（達成課題）を考える	✓

スーパービジョンの展開	バイジューのスキル	✓
終結段階	同様な場面が発生した際の、自己の取り組みを考える	✓
	課題の達成方法を考える	✓
	実践を踏まえた実習の記録を作成後、提出し、実習担当職員から助言を受ける	
	実習終了後、実習での体験を踏まえて実習報告書を作成する	
	実習報告会での研究発表	

【考察】

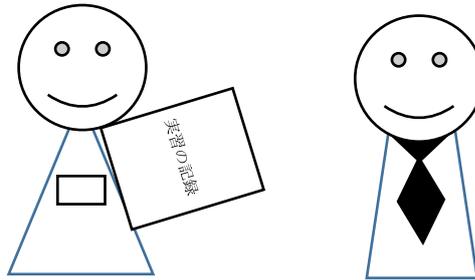
場面2-1では、実習担当職員の助言から実習生の実践における不足部分が明らかになった。そして、再実践における取り組みを考えることができ、再実践することができた。そのため、次の場面2-2につながると考えた。

場面2-2では、実習生は1度目のスーパービジョンにおいて、実習担当職員に自己開示することの重要性を理解した。そのため、2度目のスーパービジョンでは報告内容をより具体的にし、正直に話すことができた。また、この場面では実習担当職員が実習生の実践を肯定的に評価している。実習担当職員が肯定的に評価をすることで、評価を受けた実習生も自己の実践を受け止めやすくなると考えた。

場面2-3では、実習担当職員の助言から実習生がソーシャルワーカーとして必要な役割を知ることができた。今までのスーパービジョンの流れを踏まえて、今後の課題と取り組みを考えることにつながった。

【場面3-1】 終結段階

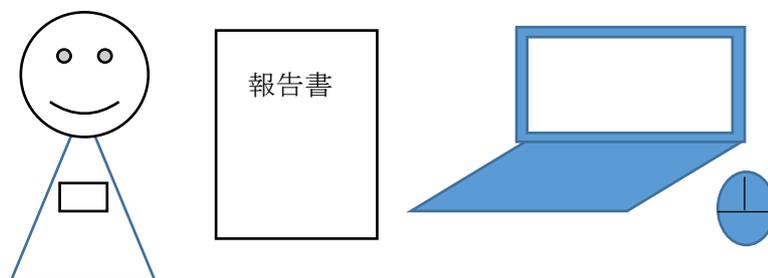
実習生はスーパービジョン後、実習の記録を作成し、実習担当職員に提出した。



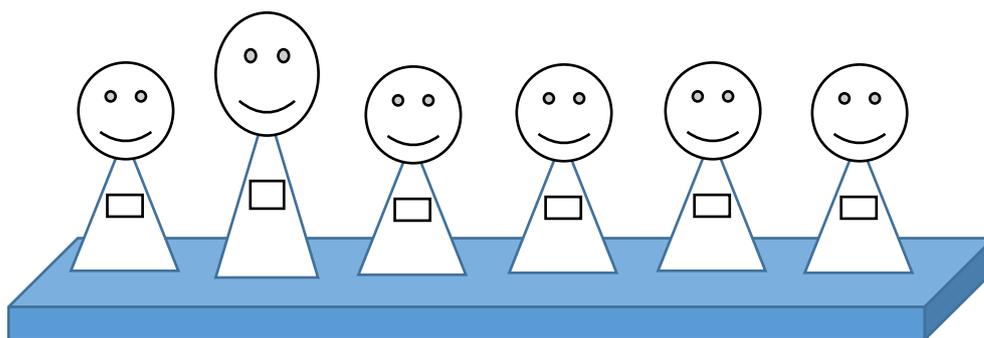
スーパービジョンの展開	バイジューのスキル	✓
終結段階	同様な場面が発生した際の、自己の取り組みを考える	✓
	課題の達成方法を考える	✓
	実践を踏まえた実習の記録を作成後、提出し、実習担当職員から助言を受ける	✓
	実習終了後、実習での体験を踏まえて実習報告書を作成する	
	実習報告会での研究発表	

【場面 3-2】 終結段階

実習を終え、実習生は実習報告書の作成に取り組んだ。実習で体験したことや実習の記録、助言などを日々振り返った。そして、実習担当教員との面談を重ね、完成させた。



そして、実習報告会の準備も始まった。実習報告会のグループメンバー全員で個々の実習での体験を振り返り、実習担当教員との面談を重ね、研究を完成させた。そして、実習報告会当日を迎え、グループでこれまで研究してきたことを発表した。



スーパービジョンの展開	バイジューのスキル	
終結段階	同様な場面が発生した際の、自己の取り組みを考える	✓
	課題の達成方法を考える	✓
	実践を踏まえた実習の記録を作成後、提出し、実習担当職員から助言を受ける	✓
	実習終了後、実習での体験を踏まえて実習報告書を作成する	✓
	実習報告会での研究発表	✓

【考察】

場面3-1では、実習の記録を作成することで、実習担当職員とのやり取りを整理し、次のスーパービジョンにつなげることができると考えた。

場面3-2では、実習報告書や実習報告会を通して、実習生が実習で体験したことや学んだことを実習担当職員に伝えることができると考えた。そして、今までの段階を通して実習スーパービジョンになると考えた。

6. 総合的な考察

私たちは、実習でスーパービジョンを活用することが困難であった。それは、実習に対する緊張があったことや自分の考えに自信がなかったため、実習担当職員に自ら進んでスーパービジョンを受けに行くことをためらっていたからである。そのためらいは、スーパービジョン関係の構築にも影響していた。スーパービジョンを活用する機会はあったが、実習担当職員からの働きかけがあったから活用できたのであり、自ら進んで機会を設けたわけではなかった。

私たちは実習担当職員と実習生のスーパービジョン関係は実習期間のみであると考えていた。しかし、今回の研究を通して、スーパービジョン関係は実習計画書を作成している段階から始まっており、実習報告会終了まで継続されていることがわかった。さらに、開始段階の実習担当職員のスキルから、実習担当職員は実習に向けて、実習生とのスーパービジョン関係の構築を始めていた。しかし、実習生は実習に対する緊張などから、実習担当職員とのスーパービジョン関係の構築に消極的であった。そのことから、私たちは自らスーパービジョンを受ける機会を逃していたことに気づいた。

以上のことから、スーパービジョンにおける4つの段階と実習生のスキルを活用することで、実習スーパービジョンが成立することが明らかになった。そして、実習スーパービジョンは、実習担当職員と実習生ともに作り上げていくものであることがわかった。このことから、スーパービジョンにおいて、お互いがスキルを活用することが重要であると考えた。

今後、実習に行く後輩たちが本研究を参考に、実習スーパービジョンを活用し、より学びの多い実習となることを期待したい。

7. おわりに

本日はお忙しい中、私たちの発表を最後まで聞いてくださり、ありがとうございました。

私たちは、実習先の領域が異なるため、テーマが決まらず、なかなか前に進むことができませんでした。ほかのグループが進んでいく中、私たちだけ置いて行かれているような気がして毎日不安でした。また、メンバー同士がぶつかり合うことに対して逃げていたため、思ったことをはっきり口に出していませんでした。そのことで、メンバー同士で不満を抱くようになり、衝突したこともありました。しかし、それを乗り越えて意見を出すようになり、

話し合いも円滑に進むようになりました。さらに、実習担当教員との面談を通して、テーマが決まったことで、研究を楽しみながら進められるようになりました。

一時期はどうなるかと思いましたが無事研究を終え、今日を迎えることができました。それは、実習を快く受け入れてくださった実習担当職員をはじめとする施設の職員の皆様、利用児・者の皆様、最後まで熱心にご指導してくださった実習担当教員の方々、実習に関する連絡調整をしてくださった実習助手の方のおかげです。心から感謝しています。そして、実習に対して不安を抱いていた私たちを励ましてくださった先輩方、報告会の準備をしてくれた後輩たち、優しく見守ってくれた家族にもとても感謝しています。最後に、辛い時も苦しい時も一番近くで支え合い、乗り越えてきた仲間たちには感謝の気持ちでいっぱいです。この一年間でたくさんの人に支えられていることを実感することができました。このことを忘れずにさらに勉学に励み、将来立派なソーシャルワーカーになれるように頑張っています。本当にありがとうございました。

8. 引用・参考文献

【引用文献】

- ・社会福祉養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 8 相談援助の理論と方法 2』中央法規 2018 年
- ・梅田寿之『対人援助のスーパービジョン - よりよい援助関係を築くために』中央法規 2005 年

【参考文献】

- ・神林ミユキ『スーパービジョンセッションにおいてスーパーバイザーが用いるスキル—ソーシャルワーカーによるスーパービジョンの質的調査—』社会福祉学 第 58 巻 第 1 号 71-85 2017